



# このまちとともに次の100年へ

民生委員制度は、大正6年(1917年)に岡山県で創設された貧困者救済のための「濟世顧問制度」を源とし、大阪府から全国に広がった「方面委員制度」を経て現在の制度になり、今年で100周年を迎えます。これを機会に民生委員・児童委員の100周年記念行事実行委員会メンバーが、民生委員制度とまちづくりについて市長と座談会を行いました。



加藤康彦会長(左)と吉田一平市長(右)

かとうやすひこ  
加藤康彦民生委員児童委員協議会会長

昭和11年に長久手市で「方面委員」が始まった時は、委員は3人だけでした。時代の変遷とともに、貧困家庭よりも高齢者や子育て世帯への対応が増えてきており、活動内容が変わってきています。しかし、いつの時代でも民生委員は、みなさんの地域に暮らす身近な“相談役”を担ってきました。100周年のこの機会に、民生委員のことを知っていただき、困ったときには助けを求めて欲しいと思います。

民生委員は、みなさんに「住んでよかった」と思えるまちを目指して活動しています。



みずのみみこ  
水野美々子委員

長年委員を務めていますが、確かに時代と共に変化があって、以前は障がい者に関わる活動が多かったのですが、現在は、高齢者や子どもに関わるものが増えてきています。

市長

本市ではここ40年、毎年約1,000人ずつ人口が増えています。宅地開発が進み、新旧の住民が入り混じる中で、まちが昔とはかなり大きく変わってきています。

とうないみやこ  
藤内美也子委員

道路、公園、お店など、まちの発展は進んでいますが、最近では高齢で車を手放す方たちがいて、買い物等に困るといった声があります。民生委員としてどこまで関わるべきか、どこまでできるのか思案しています。



## 「地域に暮らす身近な“相談役”」



しばたみのる  
柴田美則委員

民生委員・児童委員の仕事は責任もあり、どこまでやるのかは難しい問題ですが、自分自身、楽しく納得のいく活動ができるよう心がけています。

むらこしたかゆき  
村越貴行委員

高齢者や障がい者は、「外出すること」が困難で、既存の制度だけでは不十分であり、地域の人同士の助け合い、支え合いが必要だと感じています。



水野美々子委員

障がい者や介護の必要な高齢者が利用できる「福祉有償運送」という制度があって、今後、活用されることが期待されています。

市長

市としても様々な事業を実施して支援していますが、まだまだニーズに応えられていない状況です。

私は「役割と居場所があるまち」とよく言っていますが、地域で必要なことをみなさんが主導してやっていただけると良いと思います。

水野美々子委員

地域の人々の悩み事は、時代とともに変わってきていて、DV(ドメスティック・バイオレンス)、孤立死、子どもの貧困、徘徊高齢者、不登校、ひきこもり、老々介護など、多様化・複雑化・困難化していて、民生委員として地域で必要な活動が、大変広範囲になってきていると感じます。

村越貴行委員

高齢の方のお世話をさせていただく機会があり、生活の困難さ、介護の大変さがとても勉強になり、大変貴重な経験となりました。



活動の様子